



2019年8月

相手にされない

公益財団法人 国際通貨研究所
名誉顧問 行天豊雄

残念なことに日本にとっては余り芳しくない雰囲気になってきた。海外の機関投資家の日本経済や日本企業に対する関心が全く冷め切ってしまったのである。原因はいろいろあるが、よく云われるのは次の四つである。

第一は、投資のリターンが余りにも低い。去年迄は企業業績の良さが日本経済好調のシンボルだと思われ、問題はこんなに儲かっているのに賃上げや投資にカネを使わず余裕資金を貯め込んでばかりいることだといわれてきた。ところがここへ来て業況が急速に悪化しており、軒並み減収減益に転じている。にもかかわらず、経営者は形式的なコーポレート・ガバナンスの格好をつけるために社外取締役を増やしたり、指名委員会やら報酬委員会を作ったりすることに熱心で、肝心の時価総額を増やすために死に物狂いの努力をしていない。

第二は成長力の無さである。日本は世界でも少子高齢化が進んでいるため潜在成長力が落ちているのだが、それをどうやって喰い止めるか、あるいは、どうやったら生産性を向上できるかという緊急の課題について、話題になるばかりで具体的な実効のある対策がとられていない。新卒一括採用の廃止を始めとする労働市場流動化政策や、外国人労働者問題だけでない中長期の移民政策の検討は一向に進まない。その結果、労働生産性の向上は他の先進国より見劣りがするし、技術革新やデジタル化、ベンチャー・ビジネス、M&A等の競争分野での立遅れが深刻化している。

第三は、インフレ期待の消滅である。アベノミクスの柱である2%の物価上昇目標は達成不能となった。成長回復の期待が損なわれたため、家計は消費を増やさない。供給者は価格競争を強いられる。一部の高額所得者の世界と一般家計の世界が二極化し、一般的なデフレムードは払拭されず悪循環が続いてしまう。肝心の若年層は現状を変えたいという不満はないのだが、将来への希望も余り無い。夜が明けるといって国民全体としての確信が無いのである。

第四は、政策手段の枯渇である。金融政策は過剰緩和の弊害が心配されるような状態だし、財政政策の分野では増加財源はすべて社会保障費の支払いになるから、成長力強化のために使えるカネはない。政局は何時も次の選挙の話ばかりだから、腰を据えて、

短期的に不人気な政策でも、将来のために頑張ろうという勇気のある政治が生まれる筈がない。アメリカや中国がまだ金融・財政両面で政策追加の余地が残されており、かつ、政治もやる気満々なのと比べると、日本はもう弾薬庫に弾丸一発も残っていないと思われるのである。

この日本の停滞感を何とか払拭しないといけない。考えてみれば、アメリカにせよ中国にせよ、良いことばかりでは決してないのである。目先の経済の話だけを別にすれば、両国とも日本とは比較にならないような深刻な課題に直面している。アメリカは国内ではこれから 1 体どういう国としてのアイデンティティや理念を持って生きて行ったら良いのかという話で国論が完全に分裂し、国際的にはどういう役割を果たすべきかについて全く混乱の極みにある。中国は、歴史的に世界の指導的国家になるためのクレディビリティのある政治や社会、経済を構築できるのか。瀬戸際に迫っている。

悩める二人の巨人の間であって、日本が存在価値を立証するためには、世界の平和的発展に貢献できる国力と活力を持っていなければならない。影響力の無い国は誰からも相手にされない。

(株式会社マネーパートナーズ ホームページへ寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2019 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokuchō 1-chōme, Chūō-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話：03-3245-6934 (代) ファックス：03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>